



加工・業務用キャベツの品種・栽培技術および作型開発

三浦半島地区事務所

キャベツは周期的に需要があり、野菜の中ではダイコンに次ぐ消費があります。近年、外食や中食（市販の総菜等）が増え、キャベツにおいても約5割がこうした家庭外で調理、加工されています。用途は様々ですが、最も利用の多いカット・キャベツ用では、ポリウム感や歩留まり等に優れた寒玉系品種が求められます。

とくに4～5月は、抽だいの問題等で寒玉系品種の栽培が難しいため、新たな品種育成や作型開発が課題になっています。本県のキャベツ生産の約7割を占める三浦半島では、現在「浜岬」や「金系201号」など柔らかい春系品種が作られています。新たな加工・業務需要に対する産地の対応策について検討が必要と考えています。

そこで当所では、平成18年度から品種のスクリーニングや栽植密度の試験に着手し、三浦に合った品種・作型の検討を行っています。

また、実需者ニーズを的確に把握するために、加工業者や市場関係者を対象にしたアンケート調査や現地検討会なども行っています。今後は、超多収栽培技術の開発や品質評価、現地試験等も行う予定です。



試験圃場（3月時点で一部収穫済み）



加工業者等を交えた現地検討会

表1 試験中の作型例（1部）

| 品 種 | 播種日 | 定植日 | 収穫期間 | 今後の課題 |
|---|--------|--------|-------------|-------|
| T-520 冬くぐり 冬のほり 豊光 エムスリー SKI-323 | 8月22日 | 9月11日 | 12月28日～5月2日 | 抽だい抑制 |
| | 9月11日 | 10月4日 | 3月7日～5月2日 | |
| | 9月20日 | 10月25日 | 3月7日～5月8日 | |
| さつき王 さつき女王 | 10月18日 | 11月28日 | 4月25日～5月30日 | 前進化 |
| 初恋 いろどり さつき王 さつき女王 | 1月10日 | 2月21日 | 5月23日～6月6日 | 前進化 |

注：写真は、下線の品種（しまり、歩留まり、色などに品種特性がみられる）。

天敵によるイチゴの害虫防除

～果実を収穫する間は殺虫剤を使わない栽培をめざして 農業環境研究部

農業技術センターではこれまで環境にやさしい農業を推進するため、各種野菜について化学農薬や化学肥料等の使用を軽減した環境保全型農業生産技術の体系化に取り組んできました。

その一環として、イチゴの果実収穫中、化学合成殺虫剤を全く使わず、天敵等による防除で対応できないかを目標に研究に取り組んできました。

イチゴの代表的な害虫として、ハダニ類やアブラムシ類があり、これらに寄生されたまま放置するとイチゴは生育不良となり、販売することができません。

一方、現在天敵農薬としてハダニ類については「ダニを食べる補食性のダニ」のカブリダニ類、アブラムシ類にはアブラバチという寄生蜂がすでに市販されています。今回、これら天敵農薬を組み合わせ、導入試験を行ったところ、一昨年、昨年の試験ではイチゴ収穫の期間中、これらの害虫に対して化学合成殺虫剤の散布をしなくても栽培が可能であることがわかってきました。

今後、イチゴ栽培に影響を与えるその他の害虫のアザミウマ類やコナジラミ類等に対する天敵農薬の確認やイチゴ品種間における害虫の寄生性、天敵農薬の定着性の違い、あるいはより効率的に天敵農薬が働ける環境作り（コンパニオンプラント、バンカープラント）についても試験し、天敵農薬を安定的に使用できる条件を検討していきます。



天敵と天敵温存植物を利用したイチゴ栽培
(右上)ナミハダニを吸汁するミヤコカブリダニ